

藤並の森

Vol. 76



▲平成 28 年第 35 回動物愛護のつどいの開会式典で挨拶をのべる上岡会長

リレー随筆

ともに生きること

上岡 英和

私は、昭和34年に中学校を卒業するまで幡多の半農半漁の寒村で育った。

当時の小学生は高学年ともなると、一家の働き手の一人で、私の仕事は、朝早くヤギを河原に連れていき、夕方搾ったヤギ乳を母親から育児放棄された10匹の子豚に飲ませることであった。手指に吸い付く、甘痒い感触が今も手のひらに残っている。

年を重ね、七十の手習いに詩吟を始めて2年目になるが、年齢のせいか息が続かず、生来、音程やテンポが他人と少しずれていることもあって、なかなか上達せず「もう止めようか」という思いが頭を過ぎっていた。

ところが、ここ1ヶ月余り、詩吟教室の師匠から「どんな練習をしたが、すごく上手になった。がんばり。春の大会の優勝候補。」と賛辞のあらし、中退させないための方便か、でも本当かもしれないと少し自信も芽生えている。

上達の要因は何だったんだろう。

居室で、詩吟の練習を始めると長年の連れ合いは中座し別室へ逃避しますが、最近ふと気が付くと老猫が毎度どこからともなく現れ、そっと膝に寄り添い、吟詠に聞き惚れてか、時に、ゴロゴロと吟に合わせているのである。

さらに、8月のお盆に、娘が連れて帰省した

4歳の孫が、そばに座って、練習する私の口元をじっと見つめていましたが、何度目かのある日突然、私の朗詠に合わせて詠いだしました。それからの二人と一匹の合吟は、うれしさ、楽しさに満たされ、自然に熱が入りました。

さて、老猫と孫の不思議な行動に共通点が見られるように思われます。

一つは、両者共に世俗の常識、思惑などに全く無縁であること。二つは、心が純真、純白であること。三つは、おじいちゃん(私のこと)を心から信頼し、愛していること。純真な心で信頼し、愛する人の熱心な取り組みを見ると、このような行動に現れるのでしょうか。

半音痴の吟者の突然の上達、飛躍は、この両者の無心の応援、支援によるところが大きかったものと思われまふ。

今年1月に高知県立文学館において企画されている展覧会「犬猫、作家。作家とペットの素敵な関係」に登場する文豪たちは、ペット達とどのように日常をともに生きてきたのでしょうか。創作に疲れた時、行き詰った時、ペット達から多くの癒し、力を貰ったに違いありません。そのような文豪たちの日常の一コマを展示の中に探してみたいと思っています。

(公益社団法人 高知県獣医師会会長)



▲ 大原富枝さんと愛犬・ルカ／本山町立大原富枝文学館所蔵

展覧会
紹介
Exhibition

犬猫作家。

作家とペットの素敵な関係



平成29年
1月21日(土)

3月20日(月・祝)
企画展示室

観覧料500円

なんとなく近寄りたたいイメージの作家。しかし、「犬」や「猫」と一緒に写っているだけで、親しみが感じられることがあります。

本展では、作家にとって、ペットであり、家族であり、また時に編集者よりも頼もしい創作の支えとなっていたであろう「作家の飼い犬」や「作家の飼い猫」に焦点を当て、古今東西の文学者たちの人間相手には見せない知られざる一面をご紹介します。名だたる作家がどのように「犬」や「猫」とつきあい、作品に登場させてきたのか。貴重な資料やエッセイなどを通して、従来のイメージとは異なる彼らの素顔や、作家の鋭い目を通して表現された「犬」や「猫」の様々な姿をお楽しみください。



展示構成

第一部 ニャンとワンだふる！な 彼らのおはなし

ますますペットブームが盛り上がりを見せる現在。犬と猫は家族の一員としてかわいがられ、本屋にいれば犬や猫のさまざまな本が大きなコーナーを形成しています。数多い生きものの中で、なぜ「犬」と「猫」がここまで私たちの心に寄り添う存在になったのでしょうか？ 遠く起源をたどっていけば、人類と犬・猫との関わりは約2万年前頃から始まり、以来、歴史・文化・宗教・迷信などあらゆる場面で深く関わってきました。

日本でも、飼い犬の記録がすでに『日本書紀』垂仁天皇87年の条に登場しており、はるか以

前からわれわれの暮らしに寄り添っていたことが分かっています。

このコーナーでは、高知県立文学館流に神話・民話・昔話などから始めて犬と猫の歴史を振り返りつつ、犬・猫と人間との関わりを多様な角度で分かりやすくご紹介します。

また、公益社団法人日本愛玩動物協会高知県支部、公益社団法人高知県獣医師会、高知県食品・衛生課の皆さんのご協力のもと、動物愛護の現状や災害の際の同伴避難についての情報なども設けています。

第二部 作家とペットのおはなし

私たちは、しばしば動画やブログで飼い犬・飼い猫の可愛い表情や楽しいエピソードを目にします。日々のプライベートなどは積極的に話題にしないのに比べて、ペットのこととなるとどうして人は誰かに伝えたいくなるのでしょうか。

作家たちもその例にもれず、得意の表現力を駆使して自分の飼っている犬や猫をいきいきと紙の上に残しました。

また、夏目漱石の『吾輩は猫である』に代表されるように、時には犬・猫を題材にして不朽の名作が生まれることもありました。



寺田寅彦資料 猫の型紙／当館蔵

▲ 展覧会ではかつて寺田寅彦が行った猫についての実験を追体験できるコーナーも予定しています。

メインとなる企画展示室では、高知出身の作家を軸に「ペット(家族の一員)」としてそれぞれの作家が飼育していた犬と猫のエピソードを、写真資料やパネルで分かりやすくご紹介いたします。作家たちは犬や猫とともに暮らし、彼らを題材に作品を書く時、何を思い、何を託していたのか、それぞれの思いにせまってみたいと思います。



第三部

いのちと作家のおはなし

各地で「猫展」なるものが開催され、雑貨店や本屋では猫グッズや猫本などが続々と登場。「ネコノミクス」などの造語が出来るほど、今、日本は空前の猫ブームです。しかし、ブームはいずれ終わりを迎えるものです。その時に、私たちの心の中に何か変化はあるのでしょうか。

2006年8月、高知県出身の直木賞作家・坂東眞砂子(1958-2014)さんが新聞のコラムに「子猫殺し」についてエッセイを発表、物議を醸しました。

このコーナーでは、坂東さんが本当に伝えたかったテーマ「生命(いのち)との向き合いかた」を軸に、来館者の皆さまと一緒に「可愛い」や「癒される」という感情の先にあるものを探ってゆきたいと思います。

この春は、本展で作家とペットの素敵な関係を楽しみつつ、あなたと犬・猫の素敵な関係を探してみてください。

(学芸課／福富陽子)



関連イベント




1 映画上映会

展覧会担当者が厳選した、犬や猫に関する映画を上映します。



© 2016「先生と迷い猫」製作委員会

「先生と迷い猫」107分

猫が教えてくれる、町と人と、夫婦の愛のお話。

日時：平成29年 1月22日(日)
3月12日(日)

- ◎各日ともに午後2時～ ホールで開催
- ◎参加には当日の観覧券が必要です。
- ◎各日とも定員：50名／要事前申し込み



イラスト：うさ

「犬と猫と人間と2」104分

動物たちが伝える、震災ドキュメンタリー。

日時：平成29年 2月19日(日)
3月4日(土)

- ◎各日ともに午後2時～ ホールで開催
- ◎参加には当日の観覧券が必要です。
- ◎各日とも定員：50名／要事前申し込み



2 素焼きニャンぬりえ

海洋堂ホビー館四万十(原製作：山崎太久也)&安芸市ワークセンターのみなさんにご協力いただきました！

内原野の土で焼いた可愛い猫型の素焼きに自由にペイントして、すてきな自分だけのにゃんこを作ろう！



※画像は製作中のイメージです。

日時：平成29年 2月4日(土) … ホール	10:00～15:00 / 先着100名
2月5日(日) … ホール	10:00～15:00 / 先着100名
2月26日(日) … こども室	10:00～15:00 / 先着100名
3月11日(土) … こども室	10:00～15:00 / 先着100名
3月19日(日) … ホール	10:00～15:00 / 先着100名

◎各日とも午前10時から午後3時まで随時開催します。先着のため、事前のお申し込みは不要です。

◎作業スペースに限りがございます。会場が混雑した場合、取り置きのうえ時間をずらしていただく場合がございます。

参加には、
参加費500円と
当日の観覧券
が必要です。



3 ペットのキーホルダーを作ろう！

可愛いペットといつでも一緒！ペットにつけると迷子札にもなるよ！

プラバンとマジック&絵の具などで思い思いにイラストを描いてオープンで仕上げるワークショップです。

日時：平成29年 1月29日(日) (30名) … この日のみ、こども室で開催。

2月12日(日) あの人にあげよう☆バレンタイン ver (50名)

3月5日(日) あの人にあげよう☆ホワイトデー ver (50名)

◎各日ともに午後2時～4時 / 2月・3月はホールで開催します。

◎参加には、参加費300円と当日の観覧券が必要です。／要事前申し込み



※イメージです。



4 ティーチャーズ・デー！

教職員を対象にした鑑賞プログラムです。

授業にも取り入れやすい、学校向けの犬・猫文学作品を解説し、幅広い活用につなげます。

日時：平成29年 2月4日(土) 午前中を予定

3月4日(土) 午前中を予定

※学校を通じてお申込みください。団体観覧も大歓迎です！



☆展示解説

展覧会担当者による
展示解説を行います。

毎週土曜日

各日とも午後1時半～
(約20分)
参加には当日観覧券
が必要です。

☆会期中11日(ワンワン)と
22日(ニャンニャン)の日に
本展をご観覧いただいた
お客さま先着50名様に、それ
ぞれ犬と猫にちなんだステキ
なグッズをプレゼントします！
(配布場所：1階受付)

☆その他、朗読の会やファイナルイベントなどを予定しています。

会 覧 展
紹 介
Exhibition

犬、猫、作家。
作家とペットの素敵な関係



平成29年
1月21日(土)

3月20日(月・祝)
企画展示室

観覧料500円

『没後20年 司馬遼太郎展』

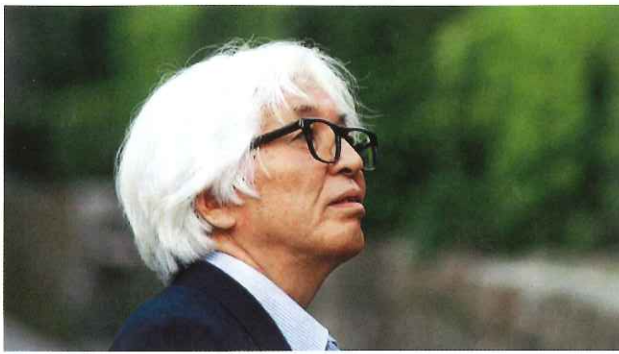
「21世紀“未来の街角”で」への誘い

平成29年
4月1日(土)～5月25日(木)
観覧料：一般500円

日本とは何か、日本人とは何かを問い続けた作家司馬遼太郎(1923・1996)が亡くなって、2016(平成28)年で、20年の節目を迎えました。

司馬さんは、20世紀を一気に駆け抜けたとも言える72年の生涯で、『竜馬がゆく』『坂の上の雲』などのミリオンセラーをはじめとする小説や『街道をゆく』『この国のかたち』といったエッセーなどを多数残しており、その綿密な資料考証とその場にいたかのようなリアリティーある語り口で、今も多くの読者を魅了し続けています。

2017(平成29)年4月1日から、高知県立文学館で開催予定の展覧会は、司馬遼太郎没後20年を記念して、産経新聞社と公益財団法人司馬遼太郎記念財団が共催し、司馬遼太郎記念館が監修しています。



没後20年 司馬遼太郎展

「21世紀“未来の街角”で」

展覧会では、司馬さんの直筆原稿や挿絵原画、作品に関連する歴史資料などを中心に司馬作品の世界を再現します。

これを機に、皆様方には、司馬作品を通して、日本の歴史をお楽しみいただければと存じます。

また、名誉高知県人でもある司馬さんは、「日本人としての固有性の高い存在というものがあるとすれば、それは土佐人ではないかという気がする」と「竜馬と酒と黒潮と」(文春文庫『歴史を紀行する』所収)に書いており、そんな高知県人を愛していました。

小説でも『竜馬がゆく』を始め、『功名が辻』『夏草の賦』『戦雲の夢』『酔つて候』など、高知の歴史を題材に多くの作品を残しており、高知会場では、『竜馬がゆく』『夏草の賦』『功名が辻』をクローズアップさせてご紹介する予定です。

その中で、司馬さんの高知への思いなどもご紹介出来ればと考えています。

高知県では、今年(大政奉還150年)から、翌年(明治維新150年)にかけて「志国高知幕末維新博」を開催、県内各地で歴史を中心に展覧が行われます。もちろん、文学館も地域会場として一躍を担っています。

そして、同年、高知県立文学館は、開館20周年を迎えます。

この記念の年に司馬遼太郎展が開催できますことを、関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

21世紀を生きる人々にメッセージを送り続ける、司馬遼太郎の世界に、是非、足をお運びください。

(学芸課長／津田加須子)

館長室から

いま『菜根譚』に思う

元吉 喜志男

古典と呼ばれる書物に触れると、人間の深遠な心のあり方や社会生活の上で大切にしなければならないことなど、時代を超えた真理を教えられたりします。

一つの言葉で勇気がわいてきたり、生涯の座右の銘となるような言葉に出会えることもあります。「朝の論語、昼の孫子、夜の菜根譚」と中国古典の書を人生の行動指針として挙げる人もいます。

16世紀末中国・明代に書かれた処世訓の最高傑作と言われる『菜根譚』は、逆境を乗り切る知恵、富貴や名声によらない幸福、人とのつきあい方、人間力の高め方等等、混沌たる現代社会を生きる上で参考になる知恵の宝庫とも言えます。

『菜根譚』の著者は洪自誠(こうじせい)という人で、前集222条、後集135条、計357条からなり、儒教をベースとしながらも、道教や仏教の思想も融合されています。明快で口調の良い対構造で書かれ、どこから読み始めてもいいところも魅力です。

「菜根」という語は、宋代の学者・汪信民(わうしんみん)の「人常に菜根を咬みえ、則ち百事なすべし」(堅い菜根をかみしめるように、苦しい境遇に耐えれば、人は多くのことを成し遂げられる)によると言われています。

各条の受けとめ方は、読む人一人ひとりの年齢や人生経験、その時々的心境等によつて様々であろうと思われます。特に、逆境の時の一步を譲る、苦しい中での楽しさ、拙の字には無限の意味がある等々、一見マイナスと思われる事象を見方を変えてプラスに転化する発想は、人生を歩んでいく上で希望の光を見つけるヒントとなるように思います。

これからも色々な面で、古典の知恵に学ぶことができればと思っています。

岡本彌太の晩年の府内 — 小さな複式校で —

猪野 睦

岡本彌太は大正12年、夜須小学校代用教員をふりだしに、香美郡下の平地の学校をまわった。詩の同人誌をだし、自由主義教育を論じる仲間たちと新興教育も語った。

その彌太が校長兼訓導として、物部川沿いの生徒数30名ほどの複式学級の寒村府内へ赴任したのは昭和14年、42歳のときだった。日中戦争も3年目に入っており、詩の世界にも戦争詩が拡がってきていた。府内はそんな世界から遠くひなびた、彌太にとっては静かに自分の詩の世界に没入できる場といつてよかった。体もこわしており、空気のいい自然にかこまれた府内は、身体をいやしていく上でもいい場所だった。妻と娘3人の5人の宿舍住まいだったが、ここでも病状は進行、3年すぎた昭和17年高知市へ入院、その年の12月2日に没した。44歳だった。



▲物部川沿い府内周辺の風景

府内小学校と生徒と写した写真が何枚か残っているが、先日その学校跡をたずねた。府内は当時、物部川に沿う細い県道を省営バスが日に数本走っていたところだったが、今は府内集落上をバイパスが抜け、そこからわずかに下にかくれたように集落が見える。その旧道へ入っていくと軒並みがあり、その上段の石垣の上に校舎跡があった。運動場は昔のまま残り、ここが70年あまり前、彌太が30人あまりの生徒と日々すごした場であったのかとひそかな感慨がわいた。

子どもの歌声／とほいあなたらの前に
湧く砲煙／くもとみづ／ひとみに蒼く
／一月のとほい山に臥す胸は／只銀の
笛を吹く

彌太が最晩年にのこした詩であるが、時代は太平洋戦争に入っていた。子供らも戦争にまき込まれていく時代、そんな時代を案じながら府内で時代に孤立しながら書きとめた詩であつたらう。じんと伝ってくる。

この府内については笠智衆の本『あるがままに』にもでてくる。昭和19年疎開してきていた。夫人の故郷である在所府内は、土佐山田から物部川に沿って上る断崖絶壁を切り開いた道で、ニュース映画で観た『ビルマルト』さながらに谷深くヒヤヒヤする道だったとある。府内には産婦人科医もいて娘水江はそこで生まれるが、戦後まで住んだのは対岸の山上谷相集落だった。府内は谷相とともに笠智衆にとっては、戦争末期の別天地でもあつたらう。(詩人)

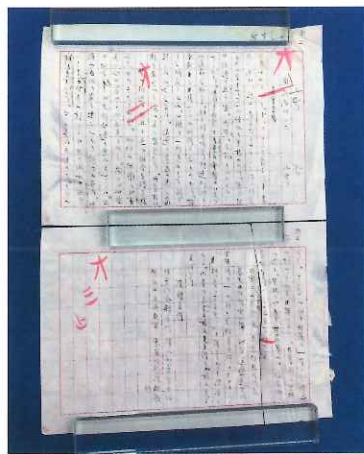
資料受贈報告

— 寄贈資料から —

黒岩涙香「南欧游舫」自筆原稿

原稿用紙

中川滋氏寄贈



受贈報告(平成28年8月〜11月) 敬称略

- ▼西村光一郎・西村和三郎宛大江満雄書簡」他
- ▼祥伝社・「待つ春や風の市兵衛18 辻堂魁著 祥伝社刊」▼食野雅子・マジック・ツリーハウス40 カリブの巨大ザメ 食野雅子訳 メアリー・ポーブ・オズボーン著 KADOKAWA刊
- ▼関直彦「永遠の友」ビーボディ・エセックス博物館と日本 関直彦著 リンガシスト刊
- ▼林嗣夫「詩集 解体へ 林嗣夫著 ふたば工房刊」他
- ▼小松弘愛「詩集 眼のない手を合わせて 小松弘愛著 花神社刊」他
- ▼山本清水「詩集 震える指 山本清水著 清樹社刊」
- ▼楠瀬勉久「詩集 SHORT STORY POEMS 古稀の魔物 根津真介著刊」他
- ▼吉中陽子「詩集 生きたあかし 吉中陽子著 飛鳥出版室編刊」
- ▼伊丹三樹彦「伊丹公子全詩集 伊丹公子著 沖積舎刊」
- ▼高知詩の会「詩よ 家を出をしない 高知詩の会合同詩集 2016 高知詩の会編刊」
- ▼横田晴光・寅彦と冬彦私のなかの寺田寅彦 池内了編 岩波書店刊」他

黒岩涙香(1862・1920)は、高知県安芸市出身のジャーナリスト、翻訳家。

「萬朝報」を立ち上げ、明治の新聞界で活躍した人物です。1918(大正7)年12月、パリ講和会議の講和使節に同行し、約半年をかけて南欧を巡り、旅の回想を1920(大正9)年3月から「南欧游舫」と題し、22回にわたって「萬朝報」に連載しました。

紙面の掲載順で追うと、フランスのバリを出発し、リヨン、マルセイユ、カンヌ、モナコ、カジノ、モナコ、地中海へ南下、模那古では嘉志野の雰囲気を楽しんだようです。伊國に入りゼノア(ジェノバ)、ピサ、比沙の傾斜塔、扶露蓮府(フィレンツェ)を経て、ローマに入り、ローマでは謝肉祭のカーニバルに巻き込まれたことや円形劇

場(コロッセオ)などを訪れたことが書かれています。その後さらに南下し、伯首美山(ヴェスヴィオ山)から寧府、本平を巡ってから、馬耳塞へ戻り、今度は西南へ下り西斑の馬德里へ。比嶺山脈の裾に広がる橄欖の林を興がたり、闘牛は残忍なので見なかったことなど、再びバリに戻るまでが描かれています。持病の喘息を抱えながらも、「厳窟王」の舞台をその目で確かめた洋行でした。

今回ご寄贈下さった中川滋氏は、萬朝報記者・中川毅氏の孫にあたる方です。資料は「南欧游舫」の自筆原稿で、ほぼ全ての原稿が揃った貴重なものです。

(学芸課/谷岡真衣)

常設展虫めがね



シリーズで、変わる常設展示をご紹介します！

高知県立文学館では、いつ来ても新しい発見、新しい体験をしていただけるよう、展示入替を行っています。今年度は「自由民権」コーナー・坂崎紫瀾「反骨の大衆文学」コーナー・黒岩浪香「現代の文学」コーナー・小山いと子とを新たに紹介しています。

展示作家紹介 小山いと子

小山いと子は1901(明治34)年高知市生まれ。父の馬太郎は蚕業試験場勤めで転勤が多く、いと子は何度も転校。行く先々の学校で才媛の誉れ高かったといえます。福岡市の私立九州高等女学校、ついで福岡女子師範を卒業し、父の勧めで福岡の製糸工場に勤める小山久一と結婚します。

保守的で、男性優位、女性蔑視の考えの久一との結婚生活の中で、いと子はいつしか高知県出身の橋田東声が選者を務める新聞の短歌欄に投稿をはじめます。そこで東声に認められ、東声主宰の「霸王樹」に歌を送るようになり、やがて東声の勧めで村岡花子らの女性ばかりの同人誌「火の鳥」に参加、この上ない文学修業の場として研鑽を積みました。

デビュー作となったのは昭和8年「婦人公論」の懸賞に当選した「海門橋」。これは基礎歪みが生じた架橋工事の施工主任の苦悶を描いた作品。翌昭和9年には「深夜」が「中央公論」の新人創作懸賞に当選するなど、着実に文壇に認められ、昭和14年には「四A格」が芥川賞候補となりました。「四A格」とは生糸の最高水準のことで、製糸工場に取材した作品で夫の久一が製糸工場長であったため、夫にも徹底した取材をしたといえます。



▲展示風景

いと子の作品は三つの系列にわけられ、一つは「海門橋」に代表される、難事業にとりくむ人間の姿を描いた作品の系列で、他に、鉱山で新たな燃料の開発に挑む一人の企業戦士を描いた「オイルシエール」、アフガニスタンを舞台にした「熱風」などがあります。第二に、直木賞を受賞した「執行猶予」や「ダム・サイト」など社会問題に取材したもの。そして第三に、男女平等、目覚める女性の姿を追求めた、『海は満つることなし』など、自伝的小説を中心とする一群があります。いずれも雄大な構想と、綿密な調査に基づいて描かれており、スケールの大きな作品が多いのが特徴です。

(学芸課/岡本美和)

第19回児童生徒文学作品朗読コンクール県審査と記念講演会

11月13日(日)、第19回児童生徒文学作品朗読コンクール県審査が開催されました。今年の8月に県内三箇所で行われた地区審査の参加者41校121人から県審査に選出された24名の児童生徒の皆さんが、豊かな朗読をしてくださいました。どの方の朗読もすばらしく、夏の地区審査よりもさらに上達しているように感じましたので、先生や保護者の方と一緒に練習を重ねて、当日に臨んでくれたのだと聴いていて分かりました。各々の個性や声にあった朗読を聞いていると、場面の空気も伝わってくるような朗読、原稿を読んだ時には気づかなかったような小さな表現まで読み込んでいる朗読など、個性と個性が伝わるものばかりでした。ですから、審査委員で講評をくださった先生が「今年ほど悩んだ年はありません!とおっしゃるのも納得しました。今年の特別審査委員には翻訳家の菱木晃子先生をお迎えし、記念講演会(翻訳は日本語が勝負!)も開催しました。翻訳家というお仕事のことや、日本語の働きなどをお話くださって、大変興味深い講演会となりました。特に、スウェーデン王国から、その功績が認められ、北極星勲章を受勲されるきっかけとなった「ニルス」のふしぎな旅の翻訳は、数年かけて翻訳した後、「さらに声に出して、何度も、何時間間も読みました」というお話をされ、声に出すことで、自然な日本語となるように翻訳されたそうです。朗読して自然に読めることが翻訳の一つのゴール、というのは朗読コンクールに携わっている時に実感として感じていることでした。朗読を聞いたときに、どのような場面を描こうかと思っているのか、物語が立体的に浮かび上がってくるように感じていますので、朗読の「思いを伝える力」を感じました。高知県は東西に長く、高知市で開催される県審査に県内からお集まりくださるというのは、高知ならではの大きな特徴かもしれません。保護者の皆様、指導をされた先生方のご協力なくしては、無事に開催することが出来ませんでした。改めて御礼を申し上げます。今年は朗読コンクール20周年になります。今年も盛会になるように努めたいです。

(学芸課/谷岡真衣)

審査結果は以下のとおりです。(敬称略)

金賞	高知大学教育学部附属中学校 2年	成田 和南
特別賞	菱木晃子賞	
	四万十市立具同小学校 6年	森 詩月
特別賞	教育長賞	
	馬路村立魚梁瀬中学校 3年	南 日向子
郷土文学賞	土佐女子中学校 2年	藤田 理香子
銀賞	高知大学教育学部附属小学校 5年	川田 真菜
	土佐市立高岡中学校 2年	長家 美岬
銅賞	いの町立校川小学校 2年	中越 仁菜
	高知市立鴨田小学校 4年	山下 泰知
	高知市立はりまや橋小学校 6年	鎮西 ひより
	土佐女子中学校 1年	金子 礼奈
	高知県立高知南中学校 3年	大野 健誠



源氏物語展

— 雅のDNA —



展覧会報告！

愛のストーリーと美の競演。
好評のうちに閉幕です！

約百日間にわたる「源氏物語展」雅のDNA」が、9日、閉幕しました。本展では、『源氏物語』の中に詠まれた帖ごとの代表歌や恋の和歌を、あらすじとともにパネルで紹介しました。

資料群は、早稲田大学名誉教授で展覧会監修者でもある、中野幸一氏所蔵の資料や、『早稲田大学図書館 九曜文庫』所蔵の江戸時代以前の貴重な資料を中心に紹介しました。なかでも、袖珍卷子



▲展示室風景

本をはじめとする嫁入本の数々は、金箔などの装飾が施されており、来場された方も感激しながら見ていました。

展示室では、美術工芸の截金ガラス「源氏物語シリーズ」(山本茜氏制作)も紹介しました。気が遠くなるほどの工程を経て生み出された、繊細な作品の数々には、多くの方が長い間足をとめてくれています。会期中には、山本氏ご本人が来館され、自身の作品解説や制作秘話を中心に話してくれました。

ロビーでは、平安装束・薫物の香りの体験コーナーを設置し、お客様は好きな色の着物を羽織るなどして楽しんでいました。また、漫画イベント「まんさい」とコラボした『あさきゆめみし』の複製原画コーナーでは、漫画家・大和和紀氏の実物な画を展示し、やわらかな色使いや描き込みに見入っていた方も多くいました。

関連企画では、中野氏による記念講演会を開催しました。中野氏は、紫式部の文章に忠実に、語りの姿勢を重視しながら『源氏物語』



▲工作イベントの様子

を翻訳されたそうで、平安文化の話などを交えながら、分かりやすくお話してくださいました。また、工作イベント「箱庭で楽しむ六条院の四季」では、光源氏が六条院に造営した「四季の町」にちなみ、参加者が思い思いの六条院を作っていました。

日本を代表する古典文学『源氏物語』を、貴重な資料の数々と美の側面からご紹介した「源氏物語展」。その魅力の一端なりを、ご紹介出来たのではないかと思います。難解であるというイメージが先行しがちな古典文学の魅力も、今後多角的にお伝えしていければ...と考えています。

最後になりましたが、展覧会開催にあたり、監修者の中野幸一氏、早稲田大学図書館様、勉強出版様をはじめ、関係各位に多大なご協力をいただきました。心より厚く御礼申し上げます。

(学芸課／野々村昭美)



企画展 案内

犬、猫、作家。～作家とペットの素敵な関係～

平成29年1月21日(土)～3月20日(月・祝) 場所:企画展示室 観覧料:500円

作家にとって、ペットであり、家族であり、また時に編集者よりも頼もしい創作の支えとなっていたであろう「作家の飼犬」や「作家の飼猫」に焦点を当て、古今東西の文学者たちの人間相手には見せない知られざる一面をご紹介します。

貴重な資料やエッセイなどを通して、従来のイメージとは異なる彼らの素顔や、作家の鋭い目を通して表現された「犬」や「猫」の様々な姿をお楽しみください。



展覧会の紹介をしています！詳細は表紙・2・3ページをご覧ください。



没後20年 司馬遼太郎展 「21世紀“未来の街角”で」

平成29年4月1日(土)～5月25日(木) 場所:企画展示室 観覧料:500円

日本とは何か、日本人とは何かを問い続けた作家・司馬遼太郎。

本展では、司馬遼太郎の直筆原稿や挿絵原画、作品に関連する歴史資料などを中心に司馬作品の世界を再現します。

展覧会のご案内をしています！詳細は4ページをご覧ください。

●平成29年度 企画展(予定)●

- ・没後20年 司馬遼太郎展
「21世紀“未来の街角”で」 4月1日(土)～5月25日(木)
- ・「青春18きっぷ」ポスター紀行 6月3日(土)～6月25日(日)
- ・いいから いいから ～長谷川義史の世界展～ 7月8日(土)～9月10日(日)
- ・文学館の文化祭(仮) 9月23日(土・祝)～11月12日(日)
- ・酒と文学展 11月25日(土)～平成30年1月14日(日)
- ・上橋菜穂子と〈精霊の守り人〉展 1月27日(土)～3月25日(日)

高知県立文学館は、平成29年11月に、開館20周年を迎えます。
本年も「魅せる文学館」をよろしくお願い申し上げます。

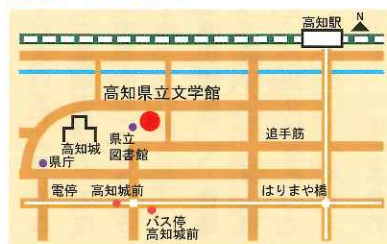


利用案内

- 開館時間 午前9時～午後5時(入館は、午後4時半まで)
休館日 年末年始(12月27日～1月1日)を除き、無休。
※その他メンテナンス等で臨時休館することもあります。
観覧料 一般360円 企画展はそれぞれ異なります。
20人以上の団体は2割引。高校生以下無料、
高知県・高知市長寿手帳、身体障害者手帳、療育手帳、
精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳および被爆者
健康手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料です。
駐車場 なし。ただし近辺に有料駐車場があります。
附帯設備 ホール、ミュージアムショップ、こどものぶんがく室、
茶室「慶雲庵」
貸出施設 企画展示室、ホール、茶室

E-mail: bungaku@kochi-bunkazaidan.or.jp
http://www.kochi-bungaku.com

交通のご案内



- 高知龍馬空港より空港連絡バス<県庁前行>
「高知駅前」下車、北へ徒歩5分または
<高知駅行>「はりまや橋」下車、徒歩20分
- JR高知駅下車、徒歩20分(または連絡バス・路面電車を利用)
- 路面電車「高知駅前」下車、北へ徒歩5分
- バス停「高知駅前」下車、北へ徒歩5分

高知県立
文学館
〒780-0850
高知市丸ノ内1丁目1-20
電話 088-822-0231
FAX 088-871-7857

フェイスブック好評配信中!

Facebook: <https://www.facebook.com/kochi.literary.museum>

